平成20年度実績事務事業評価シート (Aシート)

		₩ 2	_ 0	, 十 <sub>1</sub> 5	大人似于	为书本	一	17	(	<b>7</b>	11)		作成日:	平成2	1年8月3日
5	整理	番号		01-	080301002	201	事業種別	維維	持管理				事業態	様	継続
7	するなっ	事業名	√ना ।	式川州 <b>共</b> 然理事業			区分	コート			名	称			
=	尹/万三	<b>尹未</b> 石	(円)	川維持管理事業					会計	1	一般会計	計			
		区分	ì	コート	*	名	称		款	8	土木費				
	N/.	基本目	1 十画	5	生会,生心	ナカ理控の	t ナベノ n		項	3	河川費				
総合	前期	<b>基</b> 平日	一际	Э	安全・安心な環境の		)ま らっくり	まらつくり		1	河川総和	<b>务費</b>			
合計画	基本	施策		8	8 都市基盤の形成				細目	1	河川管理	理事業			
画	本計	加	來	8	部川玄盗V	ノハシ月入			細々目	1	河川管理	理事業			
体系	画				2 治山・治水対策の推進			枝番号							
,,,		基本事	事業 2				の推進			事業の 去令等	有無無	河川法			
	事業期間				単年度	✓ 単年	F度繰返し		期	間限定	複数年度	(	年	⋿度 ~	年度 )
(	事業概要 (事業のあらまし)														市民の潤いの場を 以の環境整備を図
				✓ 総	合計画 前邦	胡基本計画	10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1	•		担	当部課等	産	<b>業建設部</b>		建設課
		画等での 置付け		自	主的財政健全	全化計画	基本計画・村	構想・ 新	新規事業		担当係	=	上木係	記入者	渡辺忠一
171年17()			平成20年度重点事業							一次評価	<b>西者</b> (課	長等名)	堀井和原	<b></b>	

#### 1 行動方針 (PLAN)

	[1 397/2 F] (1 Ditt)									
事	対象(誰を、何を)	県管理河川敷(安達太良川・百日川・白岩川・仲川)								
業	意図→目指す成果			区分	指標名	単位				
目的	(対象をどのよう な状態にしたいの	河川周辺の環境を良好な状態にする。		成果	① 実施率	%				
	(ימ			指標	2					
_	r cn.			区分	指標名	単位				
	F段 (事業の具体的な			活動	① 河川の浄化作業面積	m²				
F	內容、手順等)			指標	2					

## 2 実施 (DO)

○事業費と財源の推移

年度	平成20年度(決	:算)	平成21年度(	(決算)	平成22年度(決算)		
区分	経費	金額	経費	金額	経費	金額	
		(千円)		(千円)		(千円	
	報償費	2, 419					
	旅費	13					
	消耗品費	10					
直接事業費	工事請負費	3, 876					
	負担金・補助及び交付金	271	\				
	①事業費計		①事業費計		①事業費計		
人件費	②人数(年)		②人数 (年)		<b>&amp;</b> 人数 (年)		
	③平均人件費		③平均人件費		③平均人件費		
	$4 = 2 \times 3$		4=2×3		4=2×3		
総事業費 ①+④		7, 450					
	国庫支出金						
	県支出金	2, 394			\		
財源内訳	使用料及び手数料						
	地方債						
	その他						
	一般財源	5, 056					

# ○事務事業の実績

	○ 事物事業が表稿									
		指標名		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成25年度		
		1日伝石		平匹	(実績)			(目標年度)		
	活動指標	1	河川の浄化作業面積	m²	84, 480	84, 480	86, 380	86, 380		
	伯刬徂掠	2								

## 本宮市行政評価システム

○事務事業の成果

		指標名	単位	平成20年度 (実績)	平成21年度	平成22年度	平成25年度 (目標年度)
	成果指標	1 実施率	%	100	100	100	100
	<b>从木</b> 1日标	2					

## 3 評価 (CHECK)

[ 1	次評価	₩,
LΙ	ᄁᄾᇚ	ш

	1 次	:評価】								
		項	目	区 分		選択理由の説明	項目評価			
目的妥	1	意図が政策びついてい	・施策体系と結るか?	<ul><li> 結びつかない</li><li> 結びついている</li></ul>	$\Rightarrow$	水辺のある自然空間が身近になり、水辺に生息する 自然生態と触れ合うことができる。	✓ 適切			
<del>岁</del> 当性	2	市が行うべき) 事業か	き (関与すべ ?	<ul><li>✓ 行う必要がある</li><li>☐ 行う必要がない</li></ul>	$\Rightarrow$	河川環境を整えることは、市民にとって高い公共性 がある。	□ 不適切			
有効性	1	目的を達成 (実施方法)	するための手段 は有効か?	<ul><li>✓ 有効である</li><li>☐ やや有効でない</li><li>☐ 有効でない</li></ul>	$\Diamond$	地元団体が一体となって除草作業をすることにより、周辺住民にとって水辺のある自然空間が身近なものとなる。	<ul><li>✓ 適切</li><li>✓ やや不適切</li><li>✓ 不適切</li></ul>			
	2	成果指標の 況は?	目標値の達成状	<ul><li>✓ 順調である</li><li>○ やや順調でない</li><li>─ 順調でない</li></ul>	$\Rightarrow$	水辺空間として周辺住民に愛着を持って利用されて いる。				
効率	1		業費又は人員に 果は得られてい	<ul><li>✓ 得られている</li><li>○ やや得られていない</li><li>○ 得られていない</li></ul>	$\Diamond$	河川環境の良好な維持が図られた。	<ul><li>✓ 適切</li><li>✓ やや不適切</li><li>✓ 不適切</li></ul>			
性	2	効率的な方 いるか?	法で実施されて	<ul><li>✓ 実施されている</li><li>○ やや実施されていない</li><li>○ 実施されていない</li></ul>	$\Rightarrow$	地元住民との協働による取り組みであり、効率的に 進められている。				
公平性	1		担が適正かつ特 団体に偏ってい	✓ 馴染まない ☐ 適正である ☐ やや適正でない ☐ 適正でない	$\Diamond$	特定な受益者への事業でないため、公平性の評価は なじまない。	<ul><li>■ 適切</li><li>■ やや不適切</li><li>■ 不適切</li></ul>			
	【2次評価】									
	全	体評価		<u> </u>		意  見	<u>-</u>			
	適切       やや不適切       不適切									

4	4 評価による行動(ACTION)								
		【1次評価】		【2次評価】					
	今後の方向性	方向性に対する取り組み (課題と解決方法等)	今後の方向性	方向性に対する取り組み (方針の指示)					
20年度	<ul><li>拡大・重点化</li><li>手段等の見直し</li><li>√ 現状継続</li><li>廃止・休止</li><li>完了・終了</li></ul>	引き続き、河川周辺の適正な管理を行う必要がある。	<ul><li>拡大・重点化</li><li>手段等の見直し</li><li>現状継続</li><li>廃止・休止</li><li>完了・終了</li></ul>						
/ 19年度	<ul><li>拡大・重点化</li><li>手段等の見直し</li><li>現状継続</li><li>廃止・休止</li><li>完了・終了</li></ul>		拡大・重点化   手段等の見直   現状継続   廃止・休止   完了・終了						
18年度	<ul><li>拡大・重点化</li><li>手段等の見直し</li><li>現状継続</li><li>廃止・休止</li><li>完了・終了</li></ul>								